



## 株式会社コーセー 2011年度 新入社員入社式を開催

株式会社コーセー(代表取締役社長:小林 一俊)は、4月1日、本社(東京・中央区日本橋)にて「2011年度 新入社員入社式」を開催しました。式典には今年度の総合職採用16名(男性13名、女性3名)が出席し、社長の小林が下記の内容の訓示を行いました。

### 社長訓示(要旨)

入社おめでとう。皆さんの社会人としての門出に対して、まずはお祝いを申し上げたい。

今回の大震災が日本経済に与える影響は計り知れないものがある。これまでも私は、これまでの常識や前提が通用しない『高リスク社会』への対応の必要性を説き、全ての物事はこれまでの延長上にあるわけではないことを肝に銘じるべきと指摘してきた。しかし今回の大震災は、まさに想定リスクを超えた出来事であり、単なる危機管理の域を超え、企業活動における全てを根本から見直す必要性に、全ての日本企業が直面しているといっても過言ではない。



私も実際に被災地の視察と激励に行ってきた。現地の被害の甚大さを目の当たりにして、形容すべき言葉もなかったというのが正直なところだ。しかし、被災地の化粧品販売店の皆さんの中には、このような状況だからこそ、世の中を明るくする化粧品の提供を早く再開し、これからの復興に貢献していきたいという声もいただき、大変心強く感じている。

皆さんも、事態の深刻さは厳しく受け止め、我々として何をすべきかを真剣に考えて行動することは当然のことだが、必要以上に悲観的になることはない。むしろ、この出来事は、我々がより一層の強い結束を図ることのできる良い機会とすべきであり、これまでも抱えてきた課題が顕在化したと前向きに考え、インフラからモノづくりの体制まで「様々な構造を抜本的に見直すチャンス」と考えるべきだ。

当社は現在、全社一丸となって改革に取り組んでいる。これまでの3年間、「現場力、スピード、シンプル化」をモットーに、創業以来蓄積してきた我々のもつ本来の強みをより一層研ぎ澄ませつつ、変えるべき点は思い切って見直し、社員全員の「意識」と「行動」も含めて改革を進めてきた。

これまでの改革で、変化する流通への対応や経営効率の向上といった側面では成果が出つつある。これからは、競争の舞台は「世界」に移りつつあることを踏まえ、「グローバル視点」に発想を変えながら、さらにますます加速する消費・購買行動の変化に適応し、これまでにない新しい取り組みにもチャレンジする「攻め」の改革のステップに入っていく。

皆さんは、このようにあらゆる意味での転換期に、我々の仲間に加わることになるが、そんな皆さんには、次の二つのことを期待したい。

まずは「チャレンジ精神」。若い皆さんだからこそ、我々や、業界のもつ、これまでの習慣・常識にとらわれない斬新な発想を活かしてほしい。我々は業界ではチャレンジャーという立場でありつづけるべきであり、皆さんはそのチャレンジ精神を率先して体現する存在であってほしい。

もうひとつは「自分を磨く」ということ。当社に憧れて入社し、愛社精神をもって働くことは大切だが、それはコーセーという看板やブランドに頼ることとは違う。まずは自分自身を磨くことで、新たなコーセー像を自分が創っていくという気概を持って業務に取り組んでほしい。

この二つを常に胸に抱きながら、今日からコーセーの一員として、新たな未来を切り開いていただきたい。

※今年度の美容スタッフ職採用は87名、3月27日より研修を始めています。震災後のため、研修会場はコーセー化粧品販売株式会社 大阪事業所にて行いました。入社式は、4月27日に開催する予定です。